

平成 28 年度第 2 回白井市廃棄物減量等推進審議会会議録（概要）

- 1 開催日時 平成 29 年 2 月 22 日（水） 午前 10 時から正午まで
- 2 開催場所 保健福祉センター2 階研修室 2
- 3 出席者 委員 藤田委員、寺田委員、市川委員、大野（晋）委員、菅原委員、
照沼委員、大野（和）委員、藤本委員、生田目委員、佐藤委員
事務局 武藤環境建設部長、川上環境課長、金森主査、佐藤主事、石田
欠席者 川邊委員、鈴木委員
- 4 傍聴者 2 人
- 5 議題 (1) 家庭に向けた減量化・資源化に関する普及啓発の徹底について（公開）
(2) 粗大ごみ処理手数料の見直しについて（公開）
- 6 配布資料 ①審議会次第 ②審議会席次 ③委員名簿 ④家庭に向けた減量化・資源
化に関する普及啓発の徹底について ⑤粗大ごみの手数料の見直しにつ
いて
- 7 議事 以下のとおり

○事務局 出席及び行政協力に対する御礼、新任等委員の報告、欠席委員の報告。

○会長 あいさつ。

○部長 あいさつ。

○事務局 資料の確認。これより、会長に議事をお願いしたい。

○会長 次第に基づいて、会議を進めさせていただく。

本日の出席委員は、10 名で過半数に達しており、会議は成立している。

○事務局 配布資料をもとに説明

○会長 それでは、事務局の説明に対して、ご意見・ご質問を願う。

○委員 健康課の料理教室のところは、他で既に募集をかけて集まっているところに話をしている効率的な方法だと思う。そういう意味では、児童向けとか、子育て向けかというと、例えば、乳幼児の育児に対する集まりとか、それから、母親になるための母親学級とか、そういう、もう既にあるところに話を持っていくというのは、必要なことなのかと思う。

子供を連れていっても、保育の用意がされていて、親が話を聞ける体制になってるところなので、そこにちょっと組み込ませてもらえたら、それはそれでちょうど回っていくんじゃないかなと思う。

○委員 幼稚園の集まり、交通教室とか、そういう感じとか、何かお母様方が集まる時にもいいんじゃないかというふうに思った。その他、うちは集合住宅だが、高齢化が大きくて、ごみの収集日を間違える人が多くて、曜日を忘れてしまう。あと、回収の袋を見ると、やっぱり資源ごみがいっぱい燃えるごみに入っていたりする。あと奥様が亡くなられて、ご主人に会ったが全然何もわからなくて、曜日もわからない。捨てるごみもわからない。全部わからない。悪気はないんだけど、わからなくて入れてしまう。

○会長 現場というか、その場所、携わっている方じゃないと結構わからないというのがあるので、どういうふうにしていけばよくなるか。例えば、いろんな自治体に住まわれている方がおら

れて、違った袋にもものを入れてしまう。その方も、そこに置いて、処理されてしまうというのが結構あったりする。だから、そこら辺をもう少しわかりやすく、丁寧に優しく知ってもらえるようにするいい方法というものを出していくのがいいのかなというふうに思う。余り頭から、それはだめですとか言っちゃうと、どうしても引いてしまわれちゃって、抵抗しできなくなってしまうというのがあるので。

○会 長 結構、マンションの場合の自治会と、普通の一戸建ての皆さんの自治会とで、扱い方がどうしても違ってきちゃうというのがあったりして、いろんな人間関係があるので難しいところなんですけれども、今言われた高齢者の方、持ってこれる方はいいんですけれども、なかなか持ってこれないという方が中にはおられて、そこら辺の問題もまたあったりする。だからどうしても、いたしかたなく体の調子がいいときに持っていきしかないとか、それを隣ご近所で情報交換なんかできて、じゃあ持っていきわよとか、持って行ってあげるねとか、そういったソフト的なところで、またつながりができると違ってくるのかな。

そういった資源化するにあたり、お年寄りの皆さんがどこまで知っていただいているかというところもあるかと思う。マンションなんかの管理組合でしたら、管理会社の方が全部見て、鉄、金属類、布がいろいろついているところ、持って行ってもらえないじゃないですか。それを全部、はさみで切ったりとか、その人分別してるんですよ。一戸建ての皆さんのところの自治会のところだったら、そうはいかないのかなというふうに思ったりしているんですけれども。そういったところも改善されると、また資源化できるものも増えていけるのかなと思う。

○委 員 私の地区で、皆さんが集まる機会に、そういった例が出てきたから、そういうふうに行くようにしようとか、そういった機会を持たないと、なかなか高齢者になると、こういう講座があっても、出ていく機会が少ないと思う。

○会 長 資源化ごみを、本当に捨てるごみというのは、かなり少ないと思う。厳密に、ちゃんとやっていけば。だから、そこら辺のところを、本当に人間関係のつながりで、随分、改善されるのではないのかなとは思っている。なかなか難しい面もあるが。自治会、自治連、その辺の話とか何か出てません。こうしたらいいとか。これから案件をいろいろ出していかないとイケないかなとは思いますが。

○委 員 今回、320人はすごい講座の人数だなと、すごいご苦労されていると思う。後、民生委員の方を通して一人暮らしで、なかなか集まりに出ないという方。そういうときに、ごみのこともちょっと気にかけていただいて、お話いただくといいのかなと思った。

○委 員 廃棄物をなくして、ゼロにするのが一番いいと思う。

○会 長 そうですね。

○委 員 お尋ねしたいんですけれども。そこに参加された方々が、こういうことをやりたいんだとか、こういうふうにしてもらえないかとかいう意見も、そこで聞かれているんですか。

○事 務 局 現状は、時間があって、アンケートなんかを書いてもらうようなときには、書いてもらったりもしている。ただ、料理教室などは時間5分しかいただけなかったんで、5分の中でその意見を聞くととなると、それだけで終わってしまうので、できなかった。30分以上時間をいただけるようなところでは、アンケートをとったり、市民大学校なんかでは、元から講座の

感想を家に帰って書いてもらうような仕組みになっているので、そこに、こうすればよかったねとかいうのをご意見いただいているので、それを参考にしたりはしている。おっしゃられたとおり、全ての機会がとれれば、それはとてもありがたいし、生かせるなどは思うんですけども、現状、短いところでは、時間がとれない。

○委員 非常にもったいないですね。これだけの方々に。

○事務局 そうですね。ただ、やはり健康課としては料理教室をメインでやっているの、環境課で1時間くれと言われても、なかなかそれは難しいと。そっちがメインじゃないので。その辺のバランスは難しい。

○委員 それと、もう1点伺いたい。

○会長 はい、どうぞ。

○委員 この1ページ目の⑩の生ごみ堆肥化講座とあるが、これは環境課でなさって、資料もこのとき配られたのか。

○事務局 はい。講師の先生の方につくっていただいて、それを印刷して配るようにしている。

○委員 そうすると、28年度は4人となっておりますね。結構むしろ、生ごみの堆肥化が、これからの白井市の大きな一つの柱じゃないかと。前回の委員会でも、どっかの小さなモデルでもつくって、小学校でもどこでもいいから、モデルケースで、生ごみの堆肥化に取り組む検討したらどうでしょうかという意見が出てましたよね。それについても、今後、相当検討していかなくちゃいけないんですけども。全体から見ると、生ごみの堆肥化が何か収束しているような感じもするんで、もうちょっと生ごみをどうやって堆肥化するかということ。これ待ったなしだと思う。この周辺で取手市さんもやってるし、もうどこを数えても、ほとんどそれをやってますよね。たしか事務局が、七次台の体操のときの部屋に来て、生ごみの説明をされましたよね。いろんなデータを出されたときに、クリーンセンターが建てかえしようとするときに、これから生ごみの負担がものすごく大きい。トン当たり2万7,000円かかるとか、幾つかお話されましたよね。だから、そういうお話をむしろ進めていかないと、十年前も同じことやって、また同じこととまってる。よそは、かなりのことをやっている。生ごみの堆肥化について、少し集中的に、行政のほうでも提案していただきたい。こうしたらどうですかとか、取手市さんに行って、なぜあそこはあれだけになったのかとか。こういう見学も私たちもしたいと思っていますので、いろんなことを。これ古い資料ですけども、白井市が、クリーンセンターにごみの回収で負担しているのが、年間4億というでしょう。10年たったら40億ですよ。そういう金額のできるだけ少なくするためにも、生ごみを早い時期に堆肥化する手立てをしていかないと。これ5年、10年かかりますよね、実際稼動するには。そういうことも含めて、もうそろそろ勉強会じゃないですけども、生ごみをどうやったら、いい堆肥ができるのかということの検討、研究、勉強会をもうそろそろやっておかないと、間に合わなくなるんじゃないかと。40年には、もうクリーンセンターが稼動し始めるわけでしょう。32年にはもう建設されるというわけだから。白井市ができるだけ早くそういう段取りをとって、印西市さんのほうにもやっぱりPRをしていくというようにしないと、200億も250億もかかるというクリーンセンターに対して、白井市の市民は、ものすごくやっぱり負担を今後も求められると思う。こういうことが次々来るわけだ

から。これは、ぜひ、いいところから、これも少し生ごみ堆肥も含め修復して、徹底的にこういうことは周知していただくという方向も、一つの方向じゃないかと思うんですよね。以上です。

○会 長 ありがとうございます。生ごみを、今現在燃やすのに、水切りをやってるわけじゃないですか。燃えやすくするために、水切りをやってるわけですよね。燃やさないで、水切りをしてるから堆肥にもしやすいわけですよね。もし燃やすにしても、燃えづらいから、普通のプラスチックのも一緒に燃やして、火力を上げるということも、今現在、多分行われてるのかなというのがあると思います。だからもったいない話ですよね。生ごみを堆肥にできないというのは。

○委 員 それは国もそういう姿勢をとってますし、やっぱりもうそろそろ生ごみを、白井市全体が一挙にやるなんてことは、とても不可能ですから。小さなグループ、団地、小学校の給食残渣を集めて、そこで小さなモデルをやって、どなたが協力できるのか、そういうことをやっていくと、これそんなに難しいことではないと思う。

○会 長 まず、そこから始めていくという。ここからやっていけば、できる方向にいけるでしょというのを始めていければ。だから何年も前から出てるんですよね、生ごみが。

○委 員 全体にもうその話だったでしょう。だから、同じことを繰り返してもしょうがないんですけども、とにかく走らないと。次の世代、次の世代、これ引き継いでいってもらえないですよね。

○会 長 ぜひとも、印西市が先に始める前に、白井市が提案出せるような形をとっていければ。ぜひ、事務局のほうの検討をいただいて、白井市から提案していける。白井市は、こういうことをもう始めましたよという形を見せられるように。

○委 員 白井市というのは、全国で最初に、ISO14001の取得だったんですよ。町では、白井市が。そういう先駆的な功績もたくさんあるんですから、生ごみなんていうのは、もう全国でやってるんですから。素晴らしい堆肥ができていて、それも商品化してるわけでしょう。だから、そういうところに目を向けていくための小さなモデルを幾つもつくって、改良していくことのほうが、市全体の環境もよくなるし、自然のものは、自然に帰さないかんというのが、まさに生ごみそのものなんですよね。そういうことを少しかういう減量、廃棄物減量ですから、それをいかに減量にするかを逆にプラス効果に変えるかということも、こういうところで議論しておいたほうがいいんじゃないかと思う。

○委 員 給食センターの残渣は、ちゃんと堆肥化されてるんじゃないですか。ここもそうですね。ここでの残渣も、たしか、もうされてるんじゃないですか。

○事 務 局 給食センターから出る残渣については、今、フジコーさんのほうで、堆肥化というよりも、今フジコーのほうでは、豚の飼料というんですかね。液肥ということを入れているということで、その液肥のものと、あとは液肥にならないものについては、堆肥化ということで、給食センターから出るものについては、今やっています。

○委 員 こちらのセンターは。ここは何か集めましたよね。

○事 務 局 今は、給食センターだけです。

○委 員 そうなんですね。以前、梨の木のチップ。この地域の特徴として、たくさん出るので、それ

もチップ化して、燃やすという話も出てたんですけども、そちらのほうの進展はあるんですか。

○事務局 まず梨のチップ化の話なんですけれども、まずチップ化して堆肥にしようとする、いろいろな問題がありまして、難しいと。それを果樹に入れようとする、病気の発生が懸念されるということで、なので、今も燃やしている。大体皆さん、燃やして灰にして、畑に戻しちゃうとか、あるいは、今ですと、フジコーさんのほうで、バイオマスガス化発電施設を完備しているので、そちらのほうで協定を結んで、こちらにご登録いただいた梨農家さんは、選定枝をそこに持って行って燃料にしていると、そういう状況です。

○委員 本当に主婦の考えなんですけれども、いろんなごみの減量の講座とか出まして、思うのは、生ごみを出さなければいいじゃない。だってフードロスですから。意識しているという、私も出してしまおうんですね。やはり、2人生活、ちょっとつくり過ぎ。冷凍とかするんですが、やはりちょっと無駄になるものもあるし、そういうものとか、あと、スーパーとかいろんなところでは、賞味期限の古いものから売ってますけれども。あれもすごい利用して、みんなにばらまいたりするんですけども。フードロスを減らすと、大分、生ごみは減りますよね。意識して生活すると、生ごみも減る。私、未熟な主婦なので、本当にだめなんですけど、やはり意識すると減りますし、フードロスで大分違う。皮も使いますし、食べるもの、ただけのもの、もう年齢も年齢ですから食べてもいいです。生ごみをなくすと、本当に減る。本当にもう恥ずかしい話、残ってしまって、ちょっと朽ち果てたものは、ちょっと恥ずかしいんですけども、庭に穴掘って入れて、自然に。そういう講座も受けたので、穴を掘ってやって。虫も来なかった。本当は出さないほうがいいが、どうしても出してしまおうときがある。家庭で気をつけていけば、生ごみは減りますし、あとは、いろいろ働きかけて、食料、スーパー、そういう業者ですね。そういうところが、寄附するところがあったら寄附していただいて、いろいろ役立てていただければ、そういうのが大事かなと思うんです。今、そういうことを思いました。

○委員 生ごみ、前回のときに、水がほとんどで、水が入っているものを可燃物に入れるというのは、すごい違和感が強かったので、毎日なるべく水を切るという感覚じゃなく、干すという感覚で、洗濯物を干すような感覚で、生ごみのごみから出したら、外に干して、乾いてからごみ箱に入れるという、そのぐらいの小さなことしかできないんですけども、多分それが、全部の家庭でできたら、1人当たり480グラムとかは、すぐクリアできるんじゃないかと思う。

○委員 なるべく心地いい方法で、頑張ってやらなくていい方法を見つけてはやっている。新聞を敷いた水切りかごの上に置く。1日じゃ乾かないので、ローテーションで。乾いたものから捨てる。

○委員 家庭全体が、それをやったらものすごく減ると思うんですよ。新聞紙の上に広げて、天日干したものを寄せて出す人もいるし、いろんなことをやっている。減ることは減っている。だから主婦の知恵で、無駄なものを出さないというのも必要。出ることはもう毎日これは出るわけだから。どこの家庭でも毎日多かれ少なかれ、大体1トンあれば100キロぐらいしかなかった。1トンの生ごみ、大体1割ですよ、実際、堆肥にできる量というのは。それは、

そんなに資材とかじゃなくて、副資材みたいな、ほかの畜糞とか、ごみだとかいろんなものを混ぜて堆肥化が、家に立派な堆肥ができるわけで、それに持って行って、運んで燃やして、水を蒸発させてという、そういう無駄に4億ぐらいかかってきたでしょう。そういう金をできるだけほかのところに回す方法を考えたらいんじゃないかと。そういう時期に来てますから。そういう検討もしたほうがいいんじゃないかと思いますね。

○委員 これぐらい水を絞らないで、クリーンセンターに持って行っちゃうと、こんなにお金もかかっちゃいますよというようなものは、講座の中ではお話を。

○事務局 はい。講座の中でまずはやっぱり余分な物を買わない。食品のロスをなくせというのは、やっぱり水切りの前の段階でとても大切なことだと思いますので、講座の中ではその説明もする。またどれぐらいの水が出るかというのを実際に試算を出して、それが、小中学校のプールを満タンにできる量なんだというような例を出して、その水を、ただただご家庭から集積所まで運んで、集積所からクリーンセンターまで運んで、さらには、クリーンセンターで、燃やしてという無駄なことをやっているというのを訴え、だから水切りをやってくださいねというふうに、説明を今、講座でやっている。

○委員 会社内でも、減量化を進めて、これだけ削減できました、この分をほかに使えますというのが、そういうところを市民の皆さんにも、それこそこういう活動によって、ほかの堆肥化の活動資金になるとか、いろいろ何かほかの具体的な例とかも示せれば、また皆さんも活動を、自分も小さいことだけどやってみようかなというような。

○事務局 モチベーションを上げるためのきっかけみたいな。

○委員 そうですね。参加、見えないけれども、自分の中で、自宅の中で参加してみようかなというような、そういう取っかかりになる何かが発信できればいいのかなと思った。

○会長 水を燃やすために燃料代がすごくかかると。すごい経費がかかっているわけですよ。それを減らすことによって、なくして、燃やすものをなくせば、その生ごみが収入源になる可能性もあるわけだから。そっちのほうを重点的に見るようにして、これからまた、時期に同じ話が出ないように、今期のうちに何らかの手を打てるような形ができればいいなというふうに思っていますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思う。

それでは、時間の都合もあるので、議題1に関しては、とりあえずよろしいか。

はい、どうぞ。

○委員 資源回収の話を、よくお聞きしたい。

○委員 今主に我々は、缶やダンボールとかそういった形で限定させてもらっているんですけども、ただ、やっぱり意識づけの部分というのは、市のほうでも一生懸命やってもらってますけれども、やっぱり実際に出すところの場所での地域の方での目の意識というんですかね。そこがすごい一番は影響があるのかなと思います。私自身が富士地区ですので、富士地区こういう団体があるというのは、やっぱり歴史で見ても、非常に小さいころから缶を集めたりとか、分別されてる方がいて、そこで一緒に手伝ったりとかということの繰り返しで来てる。結構、今4年生の子を、うちの子もそうでしたけれども、やっぱりクリーンセンターとか行って、3Rの意識とか持ち出している。問題は、そこでこういう講座があっても、それをどう家庭に帰ったときにそれが実践できるかというところで、そこをどう意識するかとい

うところで、いざ出すときに、あれ、この人たちここまでこうやっているのに、自分はこのまま出しているのかしらみたいな。そこの感覚の意識が芽生えることが、最初の第一歩なのかなと思う。

実際にこういう会議やこういう話の場ですと、これだけ負担が減るんだよとかいうよりも、実際にじゃあどうすれば、それはいいんだろう。堆肥化するには、どうしたらいいんだろうというのが、そういう講座とか行くとわかるんですけども。まず大事なものは、そういう出し方をしないという意識を持ってもらうところが、まず大事なかなというところでは、各自治会と、生活環境指導員さんとか多分いらっしゃると思うので、そういう人たちに講座みたいな形で、積極的に地域の中で、自治会の会議の定例会議のときに話をしてもらおうとかという形で、地域の同じ目線の市民間で話ができるという意識が浸透しやすいのかなと。

実際に団体として活動していても、最初は、本当にばらばら。一つの袋にいろいろなものが混ざっていたのですけれども、普段、毎月、こういうふうにこの団体さんがいつも来てくださるんだなというのがわかると、自然と分別して出してくださる。中には、毎回この袋大変でしょうということで、袋をためといてくださって、使ってくださいということで、事務所に持ってきてくださる方がいて。やっぱり、そういうことをやっているという意識が、いかにどう伝わるかというところが、すごい回収している側としても、その動機づけの部分が、すごい一番大事なのかなというふうに思う。

なかなか個人でやる意識があるんですけども、PTAさんにしてもそうなんですけれども、継続して団体でやるというのが、だんだん難しく、時代の流れる的にもなっているのかなと思うので。やっぱりその部分が集める仕組みさえあれば、そこをじゃあ我々が回収するよみたいな、お互いが協力できる仕組みになれば、意外と団体さんでも、人がかわっても継続していけるんですけれども。その役割のところをやるからには、やっぱり各自治会単位さんで、集合住宅であれば、ここに何曜日、こういうものを、雑紙は雑紙でという形で、独自で集める仕組み等を考えてくだされば、そういうところをじゃあ我々が集めるよと。私、社会福祉協議会の職員なんですけれども、高齢の方の不安の部分もあって、やっぱりそこはすごい課題になっていて、そこを皮切りに、この人、出すのにつかえそうだね、じゃあ玄関に置いてもらえれば、地域の民生委員さんや推進委員さんが、何曜日に取りに来るから、置いてねとかと、うちのヘルパーサービスのほうで、何日、取りに来るから大丈夫ですよみたいな。そうしていくと、ごみそのものでなくて、その人の生活の担当になっていく。一人暮らしの方の顔合わせができるというところで、福祉的な兼ね合いと減量化の部分をかみ合わせていくことができるのかなと。市の担当のほうからも、今後、資源回収のところポイントになってくるというお話があったが、資源回収を通して、どういうふうにアピール、PRしていくのかというのが、団体としてのこれからの課題なのかというふうに感じた。以上です。

○会 長 ありがとうございます。この件に関しては、本当にいろんなところが携わって、広くものを見ていかないと、非常に解決が難しいのかなと。今、委員からお話いただいたことも、本当に基本的なところかなというふうに思う。

例えば、私はマンションの自治会なんですけれども、お年寄りのいるところは、子供たちが

訪ねていくとか、事前にきちっとわかるようにしなきゃならないことですがけれども、置いてもらえれば、回収しますよ。子供たちも、例えば分別ということが楽しみになる可能性があるんですよ。例えばペットボトルなんかにはキャップもついて、ラベルもついていると、本来は回収しないということがあるわけじゃないですか。それを子供たちが楽しんでやるようにしてあげれば、私はそれで、一つのつながりもできていくのかなというのを感じさせていただきました。ありがとうございます。

やらなければならない、これはできるんじゃないかという課題が多々ある中、まとめていかさせていただければなと思いますので、ひとつ今後ともよろしくお願ひしたいと思います。事務局のほうは、その辺ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

○委員 先ほどからずっと、生ごみを燃やすのにかなりエネルギーを使って、金がかかって。これが、前日もやっぱりその話が出たと思う。対策としては、各家庭で水切りをよくしてという話が出てましたよね。対策というのは、それぐらいしかないんでしょうかね。ごみを回収して、それを今度、市のほうでこういう焼却場に持ち込むということなんでしょうけれども、途中で、エネルギーを使わないで水分を除くとか、そういうシステムというのは何もないんですか。雨の日はだめですがけれども、晴れの日だけはそれを動かして。それができれば。

○委員 二重バケツにして、それを配るだとか。あるいは袋。これはとうもろこしの皮でビニール袋をつくって、それに入れて、それを合わせて堆肥にしちゃうというのは、全国に結構ある。1袋当たり大体10円ぐらいかな、そのビニール袋ですがけれども。それは完全に土に戻るわけですから。やり方が結構、どういうふうを選択するかというのは、その地域によりますから。やり方としては、かなりあると思う。既にやっているところから情報を得てもいいし、見に行ってもいいし、こういうふうにすればお金がかからないのかとか。やりようは、かなりあると思う。二重バケツにしたり、圧縮して、下に水を落としたものだけを上のものを移して、指定のバケツに入れておくと、生ごみ堆肥を回収する曜日だけは、別のところに取りに来るとか、そういうところもありますし。それは本当、ここの地域に合ったやり方を選択すればいい話だと思う。

○委員 そういうあれはどうなんですか。例えば、民間の企業、周囲にある民間の企業で、そういったことを手がけているというような会社というのは、ないんですか。

○事務局 先ほど、お話申し上げましたフジコーさんで、そういう豚の飼料化、それから使えないものは堆肥化ということで、やってはいらっしゃる。ただ、回収するシステムということで、さっき委員さんのほうからお話ありましたけれども、これが一番難しく、二重バケツにして、集めて、それを回収するというふうに、これは一つの方法だと思う。ただ、一番難しいのが、先ほど意識の話で、大分出たかと思えますけれども、そこに入れていいものと悪いもの。これを今度は完全に分別をしないと、持っていった先で、今度は、それがどうしようもなくなってしまうというのが現実としてありますので、その辺が解消できれば、そういうことも一つの手としてはあるのかなと思います。

○委員 そこで、人件費もかかって、金がかかると。

○事務局 そういうことですね。逆にいうと、選別できないレベル。変なものが入っちゃっても、燃やすときは燃えてしまう。ところが、今度は完全に目的が違ってまいりますので、例えばそう

いう入れてはいけないものをいっぱい混入して、それを飼料化しようとしたときに、それを食べた豚がおかしくなっちゃったとかいうことも出てきますので。本当は、乾かして出すんだぞみたいなことで、意識を高めていただくのが一番必要なことなんです。それができれば、そういったシステムも考えていける。自治会単位で、ぜひモデルでやってみたいというのがあれば、ぜひ。

○会 長 ありがとうございます。生ごみに関しては、本当にそういった異物の部類が入っちゃうんですよ。違うものが入ってしまうと、どうしようもなくなってしまう。これはもう機械がやるわけじゃない、人間がやらなきゃならない。だから、本当に意識的な改革をきちんとやって、どこまでやっていけるかということなんですからね。

○委 員 それは、モデルをどこかに作りまして。小さなところでいいから、非常に興味のある方々に声をかけて、進めてみたらどうですか。

○会 長 これだけのことをやれば、これだけのことができるんですよということですよ。

○委 員 生ごみの堆肥化講座は、EMのやつであるんですよ。だから多分、バケツに入れて、発酵したものを土に戻すという講座を受けて、それがよしと思った方は、実行されているんじゃないかなというふうには思います。

○委 員 ぼかし菌とか、EM菌のよさは、悪臭といますか、臭いがない。生ごみを入れたときに、その上にパラパラとEM菌を入れて出せば、比較的作業する人もやりやすいから。実際、本当に堆肥化施設をつくったときに、戻し菌であったり、そういうEM菌をもう一回入れると、腐食するスピードが速いとか、完全な堆肥になるとかいう、そういうメリットがあるんですけれども。1回、私、講座に出て、EM菌の話聞きに行ったら、これも100円で売りますと、こういう話が最後に落ちてくるもんだから、そうじゃないんじゃないかと。やっぱり堆肥をいかにしてつくっていくかというふうにしていかないと、これ100円ですから、好きな人はどうぞと言われても、どういうふうに見えるのかもわからないわけですよ。

○委 員 その使い方を多分、教えてるんだと思うので、その100円というのは、福祉の人たちの収入源になるのではということで、一生懸命進めてるとは思う。

○委 員 すごくあれはいいと思うんです。そういう点ではね。

○委 員 失敗すると、もう二度と使ってもらえない可能性もあるので、何とも言えませんけれども。

○委 員 だから、富士センター、シルバーセンターさんで、ぼかし菌をつくっておられるでしょ。

○委 員 そうそう。

○委 員 あれが、ものすごくいいんですよ。実際、堆肥を私は使ってるんです。100円が200円に上がったんですけれども、ポストの中にあれを振りまくんです。層ができてると、土を入れて、またEM菌をばらまいてという、何層にもしていくと半年でいっぱいになるんですよ。もう完全に土です。それはもう、すぐ庭に戻して、溝を掘って庭に戻すと、完璧な堆肥ですよ。

○委 員 1トンあれば100キロぐらいとして、収縮してしまうわけですよ。実質、正味がそれだと。ただ畜糞だとか豚糞とか。もみがらなんか、一番素材としては堆肥化しやすいんですよ。70度ぐらい温度上がりますからね。

○委 員 やはり乾燥して、燃やす。

○委 員 生ごみは、要するに、その家庭にもよる。小さくずっと水分が出てきて、本当10%だとい

うことです。

○会 長 時間の都合もありますので、非常に大事な前向きなお話なんですけれども、これをどうやるか、どうやれば、どう始めていけるかというのを本当に検討していかなければならないという、本当に重要なことで。白井なんかも、今、農家さんがすごく多くおられるんですけども、休耕地になっているところが随分あるわけですよ。これから農家さんも、もうけてもらわなければならないんです。そうするにはどうしたらいいの。安心安全な食べ物を地産地産でやっていくにはどうしたらいいか。そういったところもきちんと見て、つないでいければ、おのずと解決策はできていけるのかなということがある。そのほかに何か。

○委 員 こういう場に出てるので、すごく重要性がわかるんですけども、普段、仕事していますので、仕事してる人って、こういう講座になかなか出れない。そうすると、この重要性が知らない方も結構多くいらっしゃるの、こういうパンフレットなり、生ごみの堆肥のつくり方というか、そういうやり方というかという、何か資料があると、もっと一般の方も、大事だなというふうにできるかなと思う。そのあたり。

○委 員 あと、すみません。アプリのことをちょっとお聞きしたいんですけども。私は全然知らずに、使っていないのでわからないんですけども、アプリはどこ。例えばごみの水分を減らしましょうとか、そういうこともそのアプリの中には入ってますか。知らせる要因としては。

○事 務 局 写真で例えば雑紙の出し方とかがわからない方とかいらっしゃるの、こういうふうに雑紙出してくださいねとかいうのを載せたり、工夫次第では、そういった水切りの話なんかも載せられると思う。

○委 員 載せられるということは、そこを見れば、環境課のごみ出しについては全て網羅されているみたいな形にされるといいと思う。

○事 務 局 はい。そうしていきいたいというふうにも思っている。

○委 員 先ほど、資源回収の話でお聞きしたんですけども。今、それぞれのお店屋さんの中でも、例えば新聞紙とか、ペットボトルとか、それからトレイとか、回収できる場所がある。それも含めて、何か市民にとっては、そこも資源ごみを回収できる場所ということで、市がやっていることはもちろん大事。それから市民団体がやっている回収も大事。だけど、そちらもどうぞ利用してくださいみたいな、そういうお知らせですか、それもあるといいのかなというふうに思う。

○会 長 ありがとうございます。

とりあえず時間の都合もあるで、議題2を進めさせていただいて、余った時間でお話の続きができればと思っていますので、よろしく願いいたします。

それでは、粗大ごみ処理手数料の見直しについてを説明させていただきたいと思いますので、事務局、説明のほうよろしく願いいたします。

○事務局 配布資料をもとに説明

○会長 ありがとうございます。白井市の場合は、今、現在は据え置きとなっておりますけれども、印西市は、現在は徴収なしと。印西市はなぜ徴収しなくても済んでいるのかなというところもあるかと思うんですけれども、ただ、余り近隣のところは、参考にするのは必要かもしれませんが、あくまでも白井市としてはどうなんだろう。有料化が金額によって、違法投棄はなくなるのか、なくなるのか、この白井市内でも、ちよくちよく違法投棄というのが見受けられる。これから3月、4月、転勤等いろいろある時期になってきますので、委員の皆様方には、白井市としてはどうなんだろうというところのご意見をいただければと思う。

○委員 全く徴収してないところから取るというときには、本当にご苦労だとは思いますが、必然と消費税が上がったら、上がるっていうところでは、当初のスタートよりは、そんなに問題ないというか、逆に、市の財政状況等考えて、これからの人口推移を考えていくと、ある程度の増は、やむを得ないのかなというふうには思う。保守的な団体の立場からすると、逆にそくなる人との組み合わせというか、みんながみんな同じような形でやるのかというところは考えないと、負担になる方も当然いらっしゃるかなと思う。

○会長 ありがとうございます。

○委員 やっぱり何かをするというのは、どうしても原価とか金掛かりますよね。だから印西市は何で徴収していないのかという。やっぱり別のほうからお金を持ってきて、それでやってきて、そういうやり方だから、一般の市民にごみ処理の負担はからない、こういうことなんじゃないか。簡単に言えば。

○事務局 印西市の粗大ごみ、お金取ってない話なんですけれども、こちら印西市で、今、検討しているところです。もともと、ごみ処理は、印西市と栄町と、それから白井市、この2市1町で扱ってまして、できれば、みんな同じ制度でやれたらいいねということで、ごみの一元化というんですけれども、それに向けた検討は現在しているところです。ただどうしても、各自治体の事情がありまして、なかなか統一的な形では対応ができなくて、今、調整を継続してやっているというところである。

○委員 先行きは、有料化になる可能性もあるということですか。印西も。

○事務局 最終的には、そこに、向かっていくのではないかなというふうには思っていますけれども、ただ、これはあくまで印西市の話で、うちのほうでどうこうと言うことはできない。

○委員 仲間にはなってますね。白井、栄、印西でしょう。同じ焼却場を使ってる。

○委員 これ、消費税が8%に上がったということであれば、これは当然、8%をベースにしていいた。だから、現行、手数料かける8%が新しい価格、手数料加算ということでもいいんじゃないかと思う。

ただ、先ほど来からお話が出ていましたように、高齢化したお年寄り、独居だとか、一人世帯だとか、あるいは、体が動かないとかいろんな、これから先のことを考えますと、粗大ごみを電話でやりとりしたときに、そういう方々のケアとか支援とかそういうことも、委託を受けた方々が対応してくれるということであれば、多少はプラスアルファということが発生するのかなということも、検討の課題になるかどうかというぐらいで。私は原則、消費税が

上がれば、当然、加算されていくのは問題ないんじゃないかと思います。

○事務局 ただいま委員の指摘で、高齢者の方とか、1人でなかなか出しづらい方の支援というお話がございました。実際に現在、市のほうで対応させていただいております。自分で持っていきける方については、そのまま窓口の手続で持って行っていただくんですけども。今言ったような方は回収という形になります。回収するのが、ごみ集積所まで持っていかないといけないんですね。例えば、65歳以上の高齢者世帯とか、1人で体、腰痛めて動けないとか、そういった場合については、私どものほうで、運び出せないものもあるんですけども、運べるものについてはお手伝いさせていただく、そういうことで、今対応している。今ご意見いただきましたので、その辺をもう少しきっちりやれるようにはしていきたいと思います。

○会長 よろしく願いいたします。 そのほか、あれば。

○委員 消費税、受益者負担。今事務局がおっしゃっていた、そういう高齢者の方へのサービスという面もアピールしていけば、そこも値上げするのに抵抗感も薄れるのかなとは思う。

○委員 よく知らなかったのは、印西も栄町も白井より安かったんですね。初めて知った。思ったんですけども。税金が必要だからということであるならば、いたしかたないというふうには思いますが、市民の意識からいったら、もう既に有料になったことにより、粗大ごみもある一定のところまでとまっているので、据え置きでも、税金がなければこのままでも、私はいいと思う。

○会長 収入が目的なのか、処理代がお金かかるので、業者さんから今値上げを要求されているとか、そういったあれなのか。委員が言われたように、消費税が上がったことに対してプラスをするのは、当然でしょうとなるのか。かかる金額が、どういった形でかかるのかということだと思う。それによって、ちょっとしたお金なんだけれども、買いたくない人も中にはいるということだ。

例えば、まだまだ使えるもの。捨ててしまうにはもったいないなというものが、もしあれば、大きいものだから保管するのも大変だろうが、事前にある程度わかっているならば、例えば、どこかで、バザーじゃないけれども、何かそういったものもやっている、回数が減っているというのはあるが、その辺のところを見込んで、そういったものを出せるようにするとか。そうすれば、使い終わったものをまた次の方が使ってもらえるとかいう形がとれれば、そういった経費の問題も少しは和らぐのかなというふうには思っている。私も自治会に携わっている中で、そういったことも少しずつ軽減されていくといいのかなんて。それには、誰かがやらなきゃならない、手間もふえてしまうし、誰かがやらなきゃならないんですけどもというところがあって。果たして、料金をいただくか、いただかないか。値上げって、手数料見直しするべきか、するべきじゃないかというところで、この場で意見をまとめたほうがいいのかな。とりあえず。

○委員 葛飾かどこかで、シルバーセンターとか、そういう方で家具を直せる方とか、そのニーズのその区で場所を設けて、大きな粗大ごみのたんすとかいろんな机にしても、使えるものをきれいにして、それを展示してというか。そういうのを聞いたことがある。結構きれいな家具があって、安く買いに来る。

○委員 保管場所が確保できればいいんだよね。

- 委員 趣味じゃないんですけれども。
- 委員 何かやってるみたいですよ。奥のほうで。何かそういう使えるようなものは、そういう方が何人かいらして、行ったときに、使えるのはこっちでなんていうふうな感じだと思う。意外と皆さんも、壊れたから出すじゃなくて、買いかえるから、使えても結構出しちゃう人いるじゃないですか。そういうのも、使えそうなのはまた直したりして、そういうのをやるような雰囲気見た。
- 事務局 今、委員のほうからお話があった、使えるものをリサイクルしていくということについては、今、印西クリーンセンターのほうで、使えるような家具については、別にきれいに下ろして、少し手直しや掃除をして、クリーンセンターのちょっとのスペースしかないので、そんなに大量には置けないが、販売を、200円とか、300円とか、大きさによって、やってるものはある。今後、次期施設のほうで、そういうリサイクルプラザみたいなのを考えていこうということで、そういうことであれば、スペース的なものも確保できるので、そういうところも考えていこうということでは、今後、検討していくよう事務方では話し合っている。そういうスペースを確保していきたいというふうに思っている。
- 委員 有料化の件だが、19年度のときは、運搬費がどれぐらいか、あるいは人件費がどれぐらいかという基本の積算をつくって、周辺の無料化されているところと比較されて、350円というようなことを決められたと記憶している。だから現在の搬出、持ち出し、あと、あるいは各家庭からの運搬費など、そういうものをいっぱい積算して、どのぐらい差が出ているのかと。今の350円の単価が、8%であれば380円というなら、これはベースになると思うが、それに、なお、そういうことを加算した場合にも、労働力が足りないから上げるんだという、いろんな理由が出てきた場合に、多少の上乗せは起こるのかどうかと。一つの今の時点の積算書といえますか、そういうものを積み上げていったときどうかということも、やっぱりチェックする必要があるんじゃないかと思う。
- 会長 そうですね。結局、それをいただかないと、どこかが負担するわけですから。だからその辺のところを事前にきちっと説明できるような環境をつくることも必要だと思う。もし上げる方向性に行くのであればだが。
- 事務局 会長いいですか。今、委員のほうからご意見いただきまして、今日、粗大ごみの有料化について、ここで決めるというわけではなくて、ここで10年、資料にも書いてあるが、10年経過して、350円というものが果たして適正かどうか。あと、ごみ量がふえているのかというところも総合的に判断をしていかないといけないので、市のほうでは、そういうものもありますので、今後のこの審議会のほうで、ご意見を伺いながら、市の方針というものを決めさせていただいて、改めて見直しについて、答申をしていきたいというふうに思っていますので、その場として、皆様のご意見をお聞かせいただきたいということで、今回、提案させていただいたので、今日決めるというわけではなくて、今後も引き続き行っていきたいと思っているので、よろしく願いいたします。
- 委員 今、いろいろいただいたので、参考にはしていただけるかなと。
- 事務局 そうですね。ありがとうございます。
- 委員 ぜひよろしく願いいたします。

○会 長 それでは、時間の都合もありますので、また次回の機会に。先ほど、資源。紙に関しては、ホッチキス云々は、ついたままでもいいですよという形にはなっているみたい。わざわざ手をけがして、痛い思いをしてまで、ホッチキスとらないで、ガムテープもついていてもいいですからという形で、とにかく今、分別するのが、随分いい機会になっているみたいで、この間、資源の紙屋さんに伺ったとき、そういう話していた。だから余り気使わず、とりあえず出してくださいという形でしたので、もしそういった形でこういうのどうなんだろうというときは、またご相談していただければなというふうに思っている。ぜひ、こういった問題も各自治会、あと、いろんな団体にも進めていければと思っておりますので、皆様の今後の協力も絶対的に必要になりますので、ぜひ、よろしくお願ひしたいと思う。

では、本日は、これで終了させていただく。本日はどうもありがとうございました。

以上